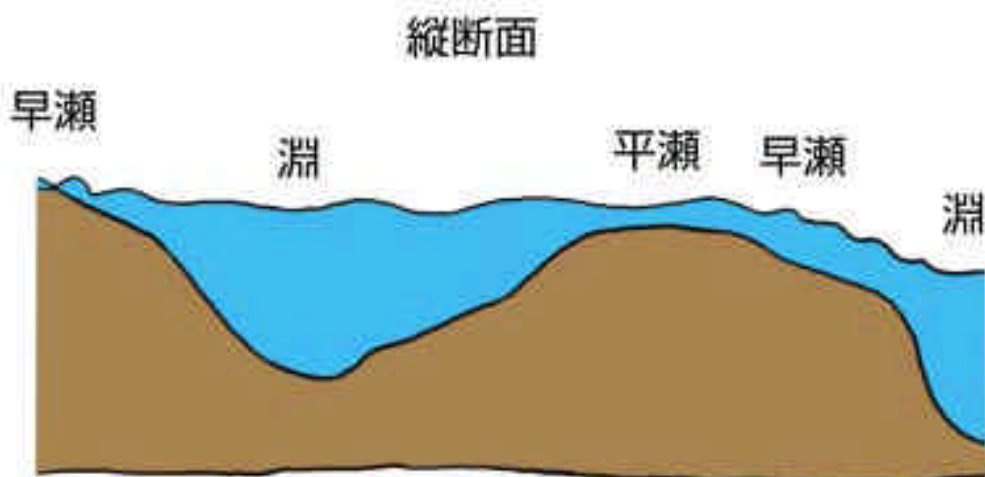
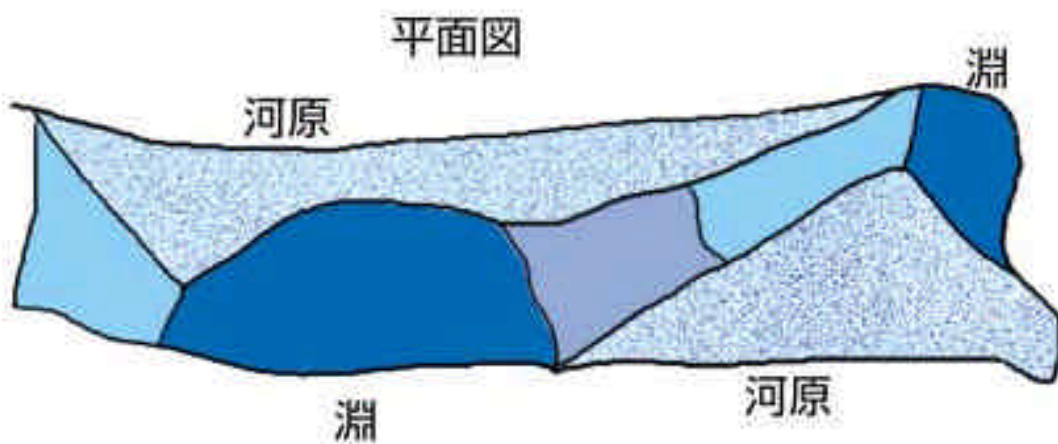


#### 1 - 4 川の中に瀬と淵が生じる

自然な川は多少とも蛇行しています。流れの曲がり角には淵があります。淵と淵とをつなぐ線上に瀬があります。つまり、自然な中流域の川では、淵と瀬が交互に存在しています。

淵が消失したり小規模化すると、下手の早瀬も消失あるいは劣悪化してしまいます。両者は一心同体といえるのです。

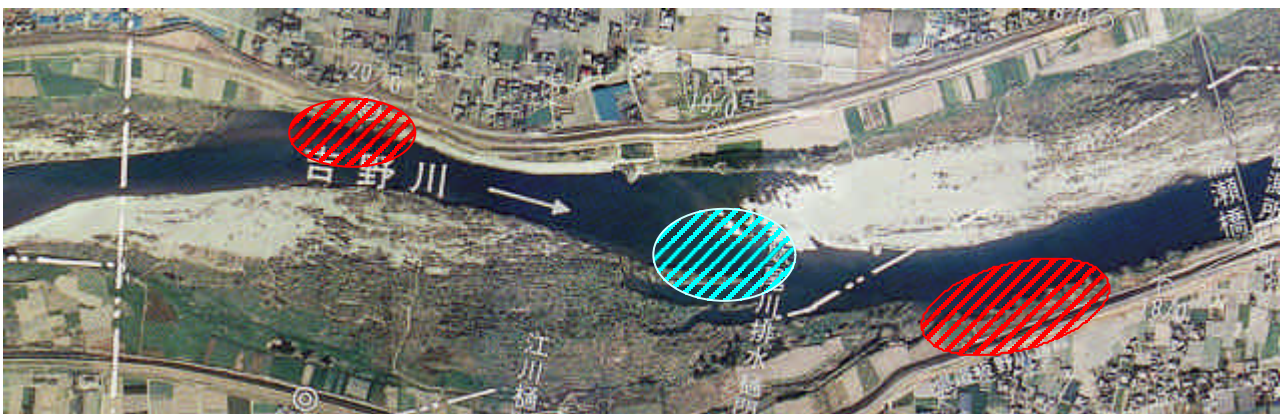


瀬と淵の構造



瀬と淵の景色（河口より6.6km上流：三野町・三加茂町）

なぜ淵がなくなると早瀬もなくなるのでしょうか。流れの方向に川を切ってみると、淵と瀬は谷と山のような形をしています。山の上流側には平瀬が、下流側には早瀬が形成されています。平常時の淵には、上手の瀬から流下してきた餌や砂粒が絶え間なく沈殿し、水深は次第に浅くなります。しかし、出水時に水の流れによって淵底から砂礫が掘り出され、淵の下手に堆積します。その結果、淵が深いほど下手には高い山が形成され、深い淵の下手には、急な勾配の早瀬ができるのです。淵がなくなると早瀬もなくなるのです。



吉野川における瀬と淵の平面配置例

吉野川にも多くの早瀬や淵があります。大きな瀬や淵には名前がつけられているものもあります。